

第6回ほどがや地域力サミット

～地域のイベント「本陣フレンドシップ・デー」から連携・協働について意見交換～

地域力サミットの目的

少子高齢化などを背景に、区内の地域課題は複雑化・多様化しています。地域力サミットは、自治会町内会をはじめ、地域で活躍する様々な団体等が連携・協力した取組を推進し、魅力ある地域づくりを進めるため、各団体の長が集まり、意見交換を行う場として開催しています。

第6回ほどがや地域力サミットは、地域で連携・協働して取り組んでいる「本陣フレンドシップ・デー」について、実行委員である佐々木安恵さんにご講演いただきました。その後、「より良い地域づくりに繋げていくヒント」について、意見交換を行いました。



▲第6回地域力サミット当日の様子

ご講演内容

「本陣フレンドシップ・デー」とは？

～自治会・連合自治会のエリアを超えた減災防災啓発イベント～

本陣消防出張所近隣住民と管内(5つの連合自治会)の有志が運営する減災防災啓発イベントです。毎年11月3日に開催し、近年は500名以上の方に来場していただいております。

当日は、子どもを対象とした消防自動車乗車体験や起震車による地震体験など、減災防災の催しがあるほか、演奏会やバザーも開かれ、幅広い年齢層の方々が楽しめるようなイベントとなっています。



▲ご講演いただいた
佐々木安恵さん



「本陣フレンドシップ・デー」の歴史

～地域を超えた「横のつながり」で、大きくなったイベント～

2006年に本陣消防出張所所長より「防災学習イベントを一緒に行きませんか?」とお話をいただき、家庭防災員10名程でバザーの品々を持ち寄ったのがフレンドシップ・デーの始まりです。

翌年、家庭防災員として出会い、日頃から顔の見える関係にあった他の委嘱委員のリーダーを兼務している皆さんに「イベントを一緒にやりませんか?」とお声掛けしました。

その結果、周辺自治会を超え、様々な方がイベントに協力してくださることになりました。そして、実行委員、運営委員は当日参加できる家庭防災員を中心に、地域住民の自主運営を目指す内容でスタートしました。

現在は、自治会長、連合会長さんにも各委嘱団体の長の立場で当日のスタッフの一員としてご参加いただいております。それぞれの立場で特性を生かし、自由な発想のもと、創意工夫を重ねた結果、本年で14年目を迎えるイベントとなりました。

イベントに携わる方々

家庭防災員／元家庭防災地区連絡員／
消防団員／民生委員・児童委員／
スポーツ推進委員／保健活動推進員／
環境事業推進委員／
瀬戸ヶ谷町自治会児童部／有志グループ／
社会福祉協議会／岩崎地域ケアプラザ／
保土ヶ谷消防署本陣消防出張所／
横浜消防音楽隊／
横浜清風高等学校吹奏楽部／
瀬戸ヶ谷小学校マーチングバンド

イベントの開催・運営にあたって大切にしていること

～「課題・問題はすぐに皆で共有。それぞれの思うことを遠慮せずに話せる場づくり」～

イベントの開催・運営をしていくうえで、課題や問題が出てきます。そのような時、たとえ小さな問題であってもそのままにはせず、それぞれの思うことを遠慮せずに話せる場を作っていくように努めています。

その一つとして、「本陣フレンドシップ・デー」では、開催当日の片付け終了後に、皆で意見交換を行う反省会を開催し、課題や問題に対して、すぐに話し合う場を持っているのも特徴です。そして、その話し合いの場では、来年のフレンドシップ・デー参加について、皆で約束を拍手で交わしています。

毎年イベントにスタッフとして参加している理由

～スタッフの皆さまにインタビューしてみました。～

立上げから関わっているので、「フレンドシップデー」を育てているという意識があります。

自分たちで企画するので大変だけれど、達成感がある。

自由度が高く自主的に考え、工夫できるので、やりがいがある。

イベントの運営・開催に携わることで、様々な方との出会いがあり、「繋がり」を感じることができた。



▲フレンド・シップデー当日の様子

講演後の意見交換

講演後以下のテーマでグループワークを行いました。

テーマ

- 地域で「横のつながり」を作り、広げていくうえで、リーダーとして何ができるかなど、参考になったこと
- なぜ、「本陣フレンドシップ・デー」が長く継続して開催できているのか



◀▲グループワークの様子

主な意見

【リーダーの役割について】

- メンバーが出してくれた意見や案を、リーダーは汲み取る姿勢を大事にし、その意見や案を実行するためにサポートすべきである。
- リーダーは、地域のメンバーが考えたことに口出しせず、尊重することを意識し、盛り上げ役に徹することが重要であると感じた。
- 各団体の活動や目的は相違しているが、互いの活動に関心を持ち、尊重することが大事である。

【イベントを継続していく秘訣】

- 普段からお互いに顔の見える関係づくりをしていくことが大事である。
- 役員等の任期が終わった方も大事にすることで、多くの方を巻き込んだイベントに繋げることができる。
- 行事運営に携わった役員のデータを取っておくことで、経験者の招集や意見を聞くことができ、行事の基盤を作ることができると感じた。